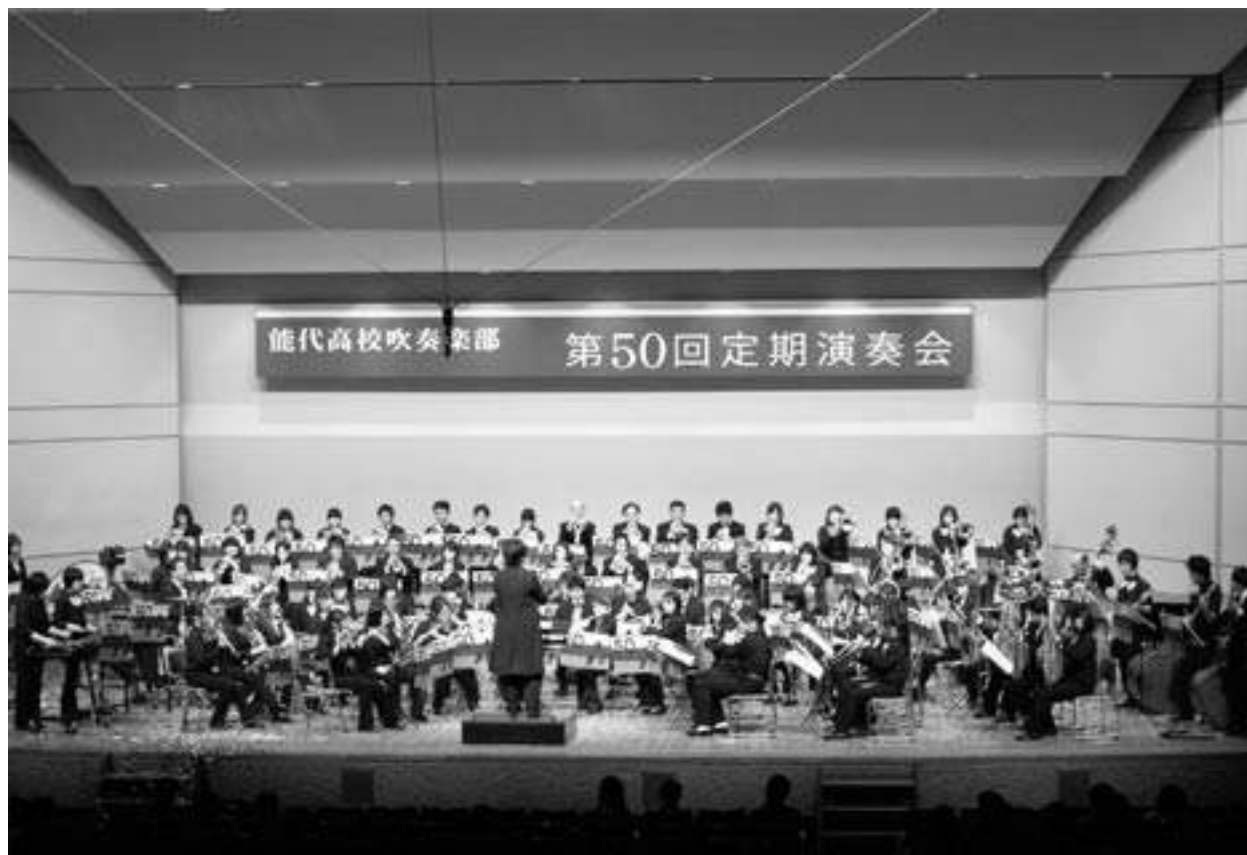


	<h1>松陵健児</h1>	<p>発行日：平成24年9月1日 発行人：能代高校東京同窓会 責任者：菅原 渉 編集：会報誌委員会 題字：山田晃一(第42期) 印刷：大森太田印刷(有)</p>
---	---------------	--



平成24年5月4日、能代高校吹奏楽部の第50回定期演奏会が能代市文化会館大ホールで開催されました。50回の節目を記念して、吹奏楽部OB・OGも参加した迫力ある演奏を披露し、多くの人に感動をもたらしました。関連記事が4～5ページにあります。撮影：梶原禎子(第53期)

平成24年度 能代高校東京同窓会総会のご案内

- | | |
|--|--------------------------------|
| 【日時】平成24年10月13日(土) | 【年会費】3,000円(1世帯) |
| <input type="checkbox"/> 受付 12:00～ | 【懇親会費】男性7,000円 女性6,000円 |
| <input type="checkbox"/> 総会 12:20～ | *お振込、または当日受付にて受領します。 |
| <input type="checkbox"/> 講演会 13:00～ | *割引制度や特例があります。 |
| 講師 浅野秀剛さん(第39期) | 【出欠】同封のはがきで9月30日(日)までに返信 |
| (財)大和文華館館長 | ください。出欠にかかわらず必ず回答はがきを投函してください! |
| <input type="checkbox"/> 懇親会 13:30～16:00 | |
| 【会場】アルカディア市ヶ谷 6階 阿蘇の間 | |

東京同窓会ホームページ <http://shoryokenji.web.fc2.com/>

総会の二次会で同期会を！

会長退任のご挨拶

東京同窓会会長 第39期 菅原 渉

東京同窓会前会長 第29期 太田 勝治

昨年の総会で太田前会長から会長職を引き継ぐ事になりました。初代会長が腰山巳代治さん1期、二代板倉創造さん3期、三代小林肇さん19期、四代畠豊彦さん25期、五代太田勝治さん29期と続き菅原が第六代目となります。私が幹事としてお手伝いを始めたのは板倉会長の時代からで、かれこれ30数年にもなりました。長い歴史と伝統のある東京同窓会をより意義のある楽しい集まりの場にできる様頑張りたいと思いますのでどうぞ宜しくお願い致します。



最近の総会は準備した会場が狭いくらいに沢山の同窓生が集まり大変賑やかで盛り上がる会になりました。若い人や女性の参加が増えるにつれ年齢層も下がり、初参加者や関東圏外からの参加者が増えているのも最近の特徴です。

「今度同期会もやろうよ！」との声を会場でよく耳にしますが、案内状を作り出欠の確認をとり会場を手配するとなると結構大変で、実際には計画だけで終わってしまう事が多い様です。そのため今年の総会を「同期会への導入ゲート」と位置付け、総会の二次会で同期会を計画してみても如何でしょうか！総会を活用して同期会を開けば会場の手配やら開催案内の手間も省けます。

久しぶりに同期生が集まり昔談義に花を咲かせるのは実に楽しいもので、これはもう端で見てより参加した方が断然楽しく盛り上がる事請け合いです。事前に人数等が分かれば事務局で会場を抑えておく事も可能です。総会での飲食の後なので皆さん二次会は2000円程度でやっている様です。

同窓会は18才～80才代の会員で構成される組織ですが、参加した人全員に楽しかったと思って貰える様な会にしたいですね！幹事さん同士はいつも言っているんです「同窓会は楽しく！楽しくなければ同窓会じゃない!!」

今年も幹事一同色々趣向を凝らし工夫したいと思いますので、10月13日は多くの人に参加頂きみんなで一緒に楽しみましょう!!

昨年10月の能代高校東京同窓会の総会において、6年間の会長職を菅原会長へ、無事バトンタッチすることが出来ました。おかげ様でこの6年間、菅原幹事長はじめ、幹事の皆さん、同窓生の皆さん方からも温かいご支援を沢山いただくことが出来ました。いろいろありましたが、この6年間を振り返ってみました。



◎IT活用の成果…畠前会長の時代からホームページを作成して、いち早くIT活用に取り組んで来たことは大正解でした。HPに加えて、ブログ、メール、SNSの活用等も積極的に取り入れています。これらの活用で若手中心の会員増強に大きく貢献してもらいました。

◎同好会の拡大と活用…能球会だけだった同好会も7つに増えました。特に「五日会」は、会員同士の交流（飲み会も盛大?）が活発で、これが縁で同窓会への出席も飛躍的に増えてきました。すごいパワーです。

◎多くの幹事の協力で…当同窓会の運営は、ボランティアによって運営されています。各幹事はそれぞれに職業を持っていますので、ボランティアにかける時間はかなり制限されます。その為には、幹事一人一人への負担は出来るだけ軽くすることが重要です。それでも、総会・懇親会直前になると、特定の幹事の負担もかなり増えることがありますので、その時は、他の幹事の応援等も頼んで切り抜けてきましたが、特定の幹事だけ大きな負担がかからないようにすることが今度の課題かも知れません。

◎幹事間の連絡を迅速に…今はITの進歩で、メール等を通じて各幹事とのコミュニケーションは瞬時に出来ますが、つい返事するのを忘れていたりすることがあります。常に迅速な対応に心掛けて、情報の流れをスムーズにして、パイプを詰まらせない事がとても大事ということも学びました。幹事の皆さん、今が一番忙しい時期と思いますが、幹事同志が一致協力して、今年も頑張って下さい。

◎数年前から総会・懇親会は大変に盛り上がってますね。懇親会の余韻がだんだんと高まって、参加者の半数近くがそのまま2次会へ、3次会へと続いたあの熱い熱い高まりを今年もぜひ、皆で味わいものですね。楽しみにしています!!

漠然とでよい

能代高等学校校長 第41期 佐々木 正一

東京同窓会の皆様には、ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。また、平素、母校の教育活動にご理解を賜り、温かいご支援とご激励をいただいておりますことに対しまして、心から感謝を申し上げます。ご勇退された太田前会長の多大なるご尽力とご功績に感謝の意を表するとともに、菅原新会長には、同窓会の発展のため、大いなるお力を発揮していただきますようお願い申し上げます。

さて、能代高校は今年度も順調に推移しております。5月の連休に行われた吹奏楽部第50回定期演奏会には、沢山のOB・OGの皆さんに出演いただき、在校生と併せ100人近い大編成で、節目を飾るすばらしい演奏会になりました。特に、東京同窓会の皆様には、掲示板などで盛り上げていただき感謝いたしております。

能代高校は、平成19年からWill Projectという事業を開始し、生徒に「大きな夢と高い志」を育み、様々な分野で日本や地域の中核を担う人材を輩出して参りました。この事業は「キャリア教育」の考え方に基づいて進められていますが、全国的に注目されており、昨年は文部科学省の依頼による発表が3回、今年度は兵庫県教育委員会からの依頼により兵庫県の高等学校の先生方を対象に講演を行いました。特徴の一つとして、生徒は1年生の時に、自分の「ライフプラン」を作成するという課題を与えられます。これは、自分が高校を卒業してから死ぬまでの人生設計をするというものです。高校1年生にそこまで要求するのは無理だというご意見も頂戴しますが、「わかっていることは、自分が死ぬことだけ。そこまでの何十年間というのを生きるわけだ。そしたら、どういふふうに生きていいかということ、当然、考えることになるわね。(略)考えるというよりもただ漠然と思っているだけで生き方が違ってくるといふことだよ」(『男の作法』池波正太郎)

同窓生の皆様も充実した人生を送られるようご祈念いたします。



卒業アルバムの大賞を目指して

能代高校同窓会副会長 第30期 佐藤 浩嗣

先日、能代高校同窓会会長田中仁純氏の旭日双光章の受章祝賀会がキャッスルホテル能代で行われました。氏の長年にわたる数々の業績の中でも、とりわけ28年にも及ぶ教育委員(16年間は委員長)としての功績に対するものでありました。同窓会会員として心からうれしい出来事であり喜んで出席し、その懇親会の席で佐々木正一校長先生から私の店(佐藤写真館)のブログの話を聞きました。このブログは私の義弟が創っているものですが、創った当初から卒業生からのアクセスが多く、情報受発信の変化に驚きながら、それに対応する商売をしていかなければと思っているところでした。

この原稿の依頼文には、「能高の卒業アルバムが日本一に選ばれたことを中心にアルバム制作を手がけた佐藤さんにご寄稿いただきたい」とあり、「ブログ情報だな」と思いながら、ちょっと面喰い思いでこれを書いています。30年以上にわたって市内5高のアルバムを作り続けてきた私の店ですが、今は義弟と息子がアルバムを手がけており、私は婚礼などの得意分野を手伝っているにすぎないからです。また、シナリオ部門や肖像部門、環境部門などいくつかの部門の中の生活部門でいただいた賞であり(過去には他の部門も受賞・なぜか能代高校のみ)、それらの上に総合部門のアルバム大賞があります。アルバムを作っている以上、私たちの究極の目標がこの賞ですので、これからもみんなて精進を重ね、「大賞」を目指して頑張っていく所存です。

ところで、今能代で話題になっていることの一つに、私たち能代商工会議所が仕掛けた「大型七夕」の復活があります。「天空の不夜城」と名づけ、五所川原の立佞武多22mを超える23mの灯籠を目指しています。文献にある最大の灯籠は5丈8尺(17.4m)のスマートなものですが、それを超える日本最大級のもので話題づくりをし、能代市の活性化につなげたいのです。秋田の竿灯、能代の「天空の不夜城」、五所川原の立佞武多、弘前ねぶた、青森ねぶたと、リゾートしらかみの沿線上に連続した夏祭りができれば素晴らしいと思っています。



特集 能代高校吹奏楽部 第50回定期演奏会

佐々木校長先生のお話(P3)にもあるとおり、5月4日に能代高校吹奏楽部の第50回定期演奏会が開催されました。参加した同窓生、現役生の熱い思いをお届けします。

「ノーブラ」の代名詞「栄光への脱出」 が高らかに鳴り響き

第49期 大高 達夫

(音楽之友社『バンドジャーナル』編集長)

能代高校吹奏楽部が、第50回記念定期演奏会を開催するという話を聞いたのは今年初めのことだった。そうか、もう50回になるのか…。30年以上前の高校時代の思い出が走馬灯のように頭の中を巡りはじめ(ほとんど部活のことしか覚えていない。休止していた定演を復活したことや、野球部の応援で2回も行けた甲子園球場、合宿など…)、日程を調べて東京日帰りなら行けることがわかった時点で、気分はもう高校生。部の後輩(クラリネット)だったかみさん(旧姓北村、50期)と連れだって会場に向かった。

「あの当時は部の勧誘で『能代高校プラスバンド、略称ノーブラ』と話して笑いをとっていたけど、今はどうなのかな?」「女子が多いから、ダメなんじゃない?」「当時から定演のラストは『栄光への脱出』と決まっていたけれど、まさか43回連続で演奏しているとは」「アンコールで『ディスコ・キッド』をやるらしいね。コンクール地区大会のときオーボエソロで落ちたのは誰だったっけ?」「そ、それは言わないで…(泣)」。過去の思い出はさておき、会場に着いてみると先輩・同期・後輩など懐かしい顔がゾロゾロ。開演直前にはすでに満席の盛況ぶりで、コンサートへの期待感が高まってきた。かみさんは先輩の富樫さん(旧姓、48期)と連れだって席をとり、自分は最後列の端の方で聴くことに。

コンサートは4部構成。前半の現役48名によるステージは元気いっぱいの演奏。50回記念といってもコンサートは君たちが主役だ。プログラム(自分たちの頃より桁違いに豪華!!しかも面白い)を読みながら、バンドのさらなる成長を祈らずにはいられなかった。

後半はOB・OGが加わってのスペシャルバンドのステージ。最初は1980~90年代に人気を



現役生が制服から衣装を替えて、第2部のパフォーマンス
撮影：梶原禎子(第53期)

博したフュージョンバンド、スクエアのキーボード奏者、和泉宏隆さんをゲストに迎えてのステージ。吹奏楽では和泉さん作曲の「宝島」をサンバ調にアレンジしたバージョンが愛奏されているが、ご自身が吹奏楽と関わるようになったのは割と最近のことだという。能代との縁には同期の加藤成二(故人)が関わっていたことがインタビューで披露されていた(ありがとう、成二)。和泉さんのピアノをバックに現役のアルトサクスがすばらしいソロを聴かせてくれたのが印象的だった。

そして第4部に入り、いよいよ待望の「栄光への脱出」。アーネスト・ゴールドの映画音楽をアルフレッド・リードが吹奏楽にした名編曲だ。毎年定演で取り上げているのだから、参加者全員が一度は吹いたことがある「栄光」の、曲のすみずみまで知りつくした深い響きには、目頭が熱くなった。プログラム最後のチャイコフスキー「1812年」(ナポレオンのロシア遠征~撤退を描いた作品。この年から今年で200周年を記念して取り上げたとのこと)も熱演。曲の最後で大砲が鳴り響く場面があるが、3台の大太鼓でそれらしい雰囲気演出していた。

アンコールは2曲あったが、2曲目で東海林修「ディスコ・キッド」(1977年全日本吹奏楽コンクール課題曲。ポップス課題曲の名曲として吹奏楽界では有名だ)が紹介され、ふとドラムセットを見ると、何と同期の中村浩三が叩いているでは

ないか！次男が一緒にステージに乗っているとはいえ、まさかこの歳で16ビートを…叩ける！しかもいいバランスだ。やるじゃん、中村。また会おうな。

「ディスコ・キッド」が終わったところで飛行機に乗り遅れないために会場をあとにしたが、自分が能代高校吹奏楽部で真の意味で音楽と出会った（その結果として音楽出版社に入ってこうして吹奏楽雑誌の編集長をしている）ことを改めて感じた、感動的なコンサートだった。顧問の奥山昇先生（サクソ、上手でした）と部員のみなさんには、これからもいい活動を続けてほしいと心より願っている。

先輩後輩を越えて付き合える伝統

第48期 広瀬 修

「先輩、『栄光』『ディスコ・キッド』吹きに来ねすか？」この誘いにそそられない先輩は少ないはずだ。50周年記念演奏会にOB・OGも出られるというのである。下手くそなのは年齢のせいにして許してもらおうと決め、コルネットを抱え練習に参加した。母校の音楽室やそこから見える景色が昔のままなので、すぐに現役生に溶け込めた。「栄光」や「ディスコ・キッド」は楽譜を見なくても吹ける箇所があり（正直、老眼で16分音符が見づらかったせいもあったが…）、これは、まだまだやれる！と喜ばせてくれた。

そんな折、全国大会常連校のOBと話す機会があり、私が50周年記念演奏会で代々演奏し続けられている曲を演奏した話や、先輩や後輩に会って話すのが楽しくて仕方がなかったといった話をした。すると、彼はそんな機会があっても、先輩とは会いたくないし、後輩も我々には会いたくないはずだから集まらないだろうというのである。部活イコール辛い思い出やコワイだけの先輩の姿しか浮かばないらしい。

50周年記念演奏会のリハで、「『栄光』を演奏している時には泣きたくなった」と一人のOBが言ったのを聞き、みんなうなづいていた様子を見るにつけても、能代高校吹奏楽部にいられて良かったと思った。全国大会に出なくても、ビッグバンドに燃えてみたり、野球の応援でファンファーレに熱くなってみたり、練習でもそれ以外

外の場面でも、とにかく楽しい部活だった。先輩後輩を越えて付き合えるそんな素晴らしい伝統が我々の誇りといえる。

さて、かの小澤征爾の呼びかけで結成された「サイトウキネンオーケストラ」のような「エイコウキネンバンド」を作るという企てを、私は思い描いて勝手にわくわくしている。

人とのつながりの大切さを実感

能代高校3年 工藤 詩帆

「100人で『栄光への脱出』やりたいね。」奥山先生のそんな言葉から第50回定期演奏会の企画は動き出しました。

本校HPを通してOB・OGの方々に参加を呼びかけたのは昨年冬のことでした。当時はまだ10名ほどからしか参加の申請は頂いておりませんでした。合同練習を重ねていく中でどんどん人数が増え、本番当日には97名でステージに上がることができました。目標の100人には及びませんでした。大人数での迫力のある演奏を客席に届けられたのではと思います。参加して下さると同時にお声をかけて下さった皆様、ありがとうございました。

また、第3部ではOB・OGの方々に加え、和泉宏隆さんをゲストとしてお迎えしました。本校吹奏楽部とは約2年ぶりの共演となりましたが、出演者の中には和泉さんの長年のファンだという方もいらして、リハーサル時の演奏を聴いて感激のあまり涙する方も見られました。

本校校歌で幕を開けた第4部では、我が部のOBである故川村昌樹氏作曲の2003年度課題曲『列車で行こう』、演奏し続け43年となる『栄光への脱出』、そしてメインプログラムの『序曲1812年』を演奏しました。『序曲1812年』では佐々木校長先生にもご出演頂いたり、ラストで巨大クラッカーを鳴らしたりと、フィナーレにふさわしい盛り上がりを見せました。

今年度の定期演奏会を通し、人と人とのつながりというもの大切さを実感しました。OB・OGの方々はもちろんのこと、ゲストの方々、広告掲載にご協力頂いたお店の方々、そして当日来場して下さったの方々…。この演奏会に携わった全ての方にこの場を借りてお礼申し上げます。

恩師に聞く

私の能高21年

金谷晴隆先生

(第24期)

■母校、そして勤務校

私は、生徒として昭和26年4月から29年3月までの3年間、数学科の教師としては39年4月から57年3月までの18年間、能代高校に在籍した。

尤も入学当初の校名は「能代南高等学校」であり、「能代高等学校」への改称は、3年に進級した28年4月1日のことである。私たちの期は、「能代高校」最初の卒業生ということになった。戦後、6・3・3制移行に際し、元の能代中学を「南高」とし能代高等女学校を「北高」として、校名を南北で対比させたのは、それによって男女平等の理を説こうという占領軍の思惑が働いていたらしいが、校名が「能代高校」に変わった時は、素直に嬉しかった。能代を代表する我が校には、この名こそ、まさに相応しい。

■共学の恩恵うすく 26年はまた、我が校が初めて男女共学になった年で、同期には41名の才媛美女軍団がいた(卒業時は36名)。当時1学年に7クラスあったが、女性が振り分けられたのはA組とB組だけだったから、男ばかりの我々F組が女性と同室になるのは、一週のうち、学級を解体して行う選択授業の数時間に限られた。実に不満だったよ。

■中学時代の蛮勇 二中3年の時に、子供だけで大きな七夕をこしらえたことがある。好い加減、時効に掛かっているから言うが、材料の大半は近所からの「徴発」だった。輪郭を描くためのロウは墓場に行けばいくらでもあったし、材木は町内にあった材木置場に毎日忍び込んで少しずつ運んだ。今思えば、材木屋の親父は見ても見ぬふりをしてきていたのだ。作業が終わると、ガッコ茶ッコになる。ガッコは本物のガッコだが、茶ッコの方は密造のドブコクだ。その七夕だが、完成後、ワラシガダで町を運行したのは勿論、よその町内



から借りにも来た。高さは、そうだな、5メートルはあっただろう。

■打って変わった高校時代 中学生の癖にモッキリで引かけてた私だが、高校時代は酒も煙草もやらなかった。何していたかと言えば、むろん勉強だ。イヤ、本当だよ。勉強が楽しかった。歴史や国語は苦手だったが、数学はいつもほぼ満点だった。神童と呼ぶ者さえあった位だ。

■マドンナ現わる 2年のとき、女の転入生があった。青銀能代支店の社宅は今も昔も、我が家(栄町。樽子山のふもと)から目と鼻の先にあるのだが、彼女は青銀支店長の娘で、学校への行き帰り、或る日は彼女が先を行き、或る日は後から来るというように、毎日一緒になる。私は彼女が気になって仕方なかったが、後年聞いたところでは、先方も私を気に懸けていたようだ。卒業後も同期会や同期生の子供の祝儀で彼女と顔を合わせる機会が度々あった。去年、ふとしたことから彼女の誕生日を知った。彼女は今、函館に住んでいるのだが、今年初めて、誕生日に花を贈った。全く息の長い、清らかな交際だ。

■母校の教壇に立つ 38年に結婚し、翌39年に北高から能高に転勤した。教師が一つの学校に長く勤めた時代で、生徒時分にいた恩師の過半が残っていた。「カネ、カネ」と言って、我が儘な私をよく可愛がってくれた。勤め出して驚いたのは、学年部会その他の会議が北高と違って非常に少なく、やっても時間が短い。先生それぞれが、一国一城の主然としている。これには感心した。

39年から野球部長に就くまでの9年間というものは、恩師でもあるタゲジュー、ダイショーら諸先輩と、よくうちで雀卓を囲んだ。困ったことに、二人とも滅茶苦茶に勝負強い。で、私から万札を巻き上げるや、「カネ、飲むに行くぞ!」とばかりに柳町へ繰り出す。自分の金でおごられるんだから世話はない。

■野球部長就任 47年に硬式野球部長になった。それまで以上に飲み方も増える。二日酔いで苦しい時は、黒板に課題を殴り書きし、そのまま衛生室へ駆け込んで寝てしまうこともあった。鬼の太田(監督)に仏の金谷の名コンビで、2度甲子園の土を踏んだのは、私の人生でも掛けがえのない、素晴らしい思い出である。

■近況 退職後は、自宅の敷地に庵を編み、これを一新会館と号して、元同僚や教え子ら、同好の士を集めて囲碁にいそんでいる。全県大会で2位をとった猛者もいて、会員の意気は高い。

役七夕のゾウりに「NHK」と記名してあるのが御不審か？ 日本放送協会？ そんなケチなものではない。私は能代のハルタカ・カネヤだ!!

聞き手/文責：小野 立 (第67期)

能高生だより 在校生は今年も活躍しています！

活発でより良い能高に…生徒会活動

生徒会長 3年 佐々木 禎

今年の生徒会の主な活動として、まず全校生徒が飲んだペットボトルのキャップを回収してワクチンに換えることと、壮行会などの各種集会の運営がありました。そして生徒会としての大きな行事として、生徒総会がありました。

今年の生徒総会は事前に全校生徒から寄せられた意見・要望をもとに、選挙、補習の制度から、日常生活に関することまで活発に議論が行われました。能代高校をより良いものにしていきたいという熱い思いがよく表れていたと思います。

今後も生徒会執行部として全校生徒と協力し、能代高校を活発でより良いものにしていきたいと思っています。

で作業を続けており、趣向をこらした装飾で皆の目を楽しませてくれました。

全校生徒の能高祭にかける思いが梅雨を吹き飛ばし、燦々と輝く2日間となったのだと思います。来年もまた能高の伝統を受け継ぐ素敵な能高祭になることを祈ります。



能高祭、書道部の「書道パフォーマンス」(第1体育館)

能高祭は力作揃い

能高祭実行委員長 3年 薄井 雅哉

6月30日、7月1日の2日間にわたり、能高祭が開催されました。今年の能高祭のテーマ「燦夏(さんか)」の通り、天候にも恵まれ、お客様にも楽しんでいただけたと思います。



実行委員長、薄井雅哉君の開祭宣言

クラス対抗のHRデコ、壁新聞、ムービーは力作揃いでした。特に1年生の作品には目を見張るものがあり、3年生になったらどれほど素晴らしいものを創るのかと胸が躍りました。また校内を彩る装飾部門では、毎日夜遅くま

無線部がARDFの国際大会へ

3年 平川 百佳

昨年9月、オーストラリアで開催されたARDFの国際大会(アジア・オセアニア大会)では規模も大きく、環境が違うのでかなり緊張しました。心細い時に日本選手団の方々が私の心の支えになってくれました。それから、競技中に苦しかった時、日本にいる家族や友達や無線部員達の顔が浮かび、諦めないで頑張り抜くことができました。

国際大会で優勝という結果を残せたことは、自分にとって大きな自信になりましたが、それは私を支え、見守って下さる全ての人達のお陰だと思っています。また、国境を越えて幅広い年齢層の人達と交流することができ、生涯忘れることのない、貴重な体験になりました。

今年9月に行われる世界大会では、今まで経験したこと集大成として、全力で競技に臨みたいと思います。感謝の気持ちを忘れずに臆することなく頑張ります。

平成24年度 能代高校東京同窓会総会・懇親会のご案内

【日時】平成24年10月13日(土)

受付 12:00～

総会 12:20～

講演会 13:00～

懇親会 13:30～16:00

【年会費】3,000円(1世帯)

*卒業年次による免除や割引はありません

*新卒者は本年のみ年会費1,000円

【懇親会費】男性7,000円 女性6,000円

*割引制度や特例があります(下段参照)。

*6階・会場前の受付でお名前をおうかがいし、会費・懇親会費をお預かりします。

【出欠】同封のはがきは9月30日(日)までに投函ください。東京同窓会ホームページでも受け付けます。<http://shoryokenji.web.fc2.com/>

【会場】アルカディア市ヶ谷 6階 阿蘇の間

JR/地下鉄(有楽町線、南北線、都営新宿線)
市ヶ谷駅より徒歩3分

千代田区九段北4-2-25 電話03-3261-9921

<http://www.arcadia-jp.org/>



講演会 演題「海外日本美術事情 —浮世絵を中心に—」

講師：浅野 秀剛さん(第39期)

欧米の人が知っている日本美術といえば、第一に浮世絵です。日本美術の本格的な海外流出は、16世紀の南蛮貿易に始まり、17世紀からの長崎を窓口とした交易を経て、明治に至ります。主な輸出品は、南蛮貿易では漆器、江戸時代は有田焼(伊万里)でしたが、明治になると、大量の浮世絵版画が輸出されました。それがジャポニズムをひき起し、ヨーロッパ美術に大きな影響を及ぼしました。そのありさまを明治期を中心に述べ、戦後に本格化された在外日本美術の調査と里帰り展の状況を合わせてお話しします。



プロフィール あさのしゅうごう 1950年生まれ。能代一中出身。能代高校第39期(3年A組)。立命館大学理工学部数学物理学科卒業。哲学博士(学習院大学)。千葉市美術館学芸課長を経て2008年から奈良の財団法人大和文華館館長。同年優れた東洋美術研究に贈られる国華賞を受賞。国際浮世絵学会常任理事編集委員長。浮世絵「写楽」の研究では日本の第一人者として知られ、教育テレビを始め多くの美術番組に出演。美術館や博物館でも多数講演。

★出欠にかかわらず回答はがきを必ず投函してください!

同窓会案内に対して3年間連続して無回答の方は会報誌発送リストから外され、往復葉書による隔年案内または発送停止に切り替わります。個人情報保護の高まりからか、表札を掲げない人や郵便受けに名前を表示しない人が増え、引越により違う人が住んでいても郵便物等がそのまま配達され、会員の皆さんに届いていないケースが多くなってきたことからです。

*会報は3年の間に1回でも「総会に出席した人」「会費の納入があった人」「回答はがきを返信した人(出欠問わず)」を対象に発送しております。

*3年間も回答のない方は案内が届いていない人と見なされます。

★住所変更の届けをお願いします!

住所やメールアドレスの変更があったときは、事務局までお知らせください。そのままですと会報誌や総会案内などが届かなくなります。住所確認のためにも回答はがきの投函をお願いします。手書きでFAX(事務局03-5847-7056)でも、ホームページ<http://shoryokenji.web.fc2.com/>からも送信できます。

【懇親会費の割引・特例】男性7,000円 女性6,000円から、以下のとおり差し引きます。

- | | | | |
|-----------|------------------|---------------|-----------------------|
| 1) 初参加割引 | 総会・懇親会に初参加の同窓生は | 3,000円引 | ★1) 2) 3)は重複可 |
| 2) 若者割引 | 第61期生以降の同窓生は | 3,000円引 | (来年は62期生以降が対象です) |
| 3) 先輩割引 | 第26期以前の同窓生は | 3,000円引 | (来年は27期生以前が対象です) |
| 4) 学生割引 | 同窓生でまだ学生の方は | 懇親会費を免除 | (年令不問) |
| 5) 新卒者の特例 | 今年2012年に卒業した同窓生は | 懇親会費を免除 | (年会費の1,000円だけで参加できます) |
| 6) 同窓生の参加 | 東京同窓会以外の同窓生は | 5,000円で参加できます | (東京同窓会年会費は不要です) |
| 7) 家族の参加者 | 同窓生の家族の参加者は | 3,000円で参加できます | |
| 8) 友人の参加者 | 同窓生以外の参加者は | 5,000円で参加できます | |

平成23年度総会・懇親会の出席者(敬称略)

【19期】小林肇(能代)【21期】谷内成治*(能代から参加)【23期】矢口裕(二中)【24期】山縣輝輔(二中)、小山黎子(二中)、今村宏司(一中)、金丸正(二中)【25期】畠豊彦(一中)【26期】畠山信孝(鶴川)、板倉富弥(下岩川)、松橋重美(二中)【27期】山田邦夫(荷上場)、檜森寛(鶴川)、大村真陸郎(浜口)、石嶋喜直(岩館)【29期】太田勝治(鹿渡)、宮腰興紀(一中)、関根市男(一中)、笹木広澄(藤里)、宮腰瑞夫(一中)、清水武久(田代)、鈴木元紀(二中)【30期】熊谷幸夫(一中)、渡辺傑(一中)、相澤節夫(一中)【31期】馬場富男(二中)、高松和夫(金岡)【32期】森田弘(一中)【33期】石原恵美子(二ツ井)、小林勝平(一中、能代から参加)、清野勝子(秋田東)、金田英成(一中)、矢木信章(東能代)、櫻田真人(二中)【34期】西川廣正(東雲)、畠山昇(浜口)、長岡忠光(檜山)、庄内正(東雲)【35期】横田真理子(一中、旧姓腰山)、干場革治(八森)【36期】深井学(東雲)【38期】豊嶋誠(檜山)、大塚健三*(浅内、愛知から参加)、佐藤能雅(東雲)、新堀勝男(東雲)、袴田忠夫(二中)、岩谷憲一(一中)、長谷見雅子*(二中)、【39期】菅原渉(下岩川)、大塚進(二中)、泉龍英(一中)、直嶋博明(東雲)、田村敏雄(一中)、持田訓*(一中)、木村行雄(一中)、下坂節男*(藤里)【40期】清水英宏*(田代)【41期】小河範也(二中)、大久保英生(二中)、佐々木正一*(二中、能代から参加)、金子裕二*(八竜)、瀬川公平*(二中)、成田忠幸*(二ツ井)【42期】塚本恵子*(二中、能代から参加)【43期】菊池忠夫(藤里)、須藤正喜(八森)、福岡武(二ツ井)、高橋敦子(東能代、旧姓渡辺)、大塚和博(二ツ井)、石塚信一(一中)、北林博敏*(下岩川)、小沢茂則*(下岩川)【44期】庄内俊憲(八森)、橋本周平(八森)、佐藤典*(潟西中)【45期】袴田邦夫(二中)、三浦洋(森岳)、大塚雄蔵(二中)、小杉山乙矢*(一中、静岡から参加)、相澤正和*(一中)、加藤成*(下岩川、三種から参加)、榊原正彦*(東能代)、港基樹*(常盤)【46期】齊藤靖雄(沢目)、吉田真由美(一中、旧姓工藤)、秋林泰樹(二ツ井)、石井喬(二中)、佐藤浩(一中、能代から参加)、平川尚(一中)、児玉憲悦*(一中)【47期】野村一哉(二中)、和平忠幸(八森)【48期】野村松信(檜山、秋田から参加)、竹内勉(一中)【49期】片谷浩之(二中)、松永京子(二中、旧姓三輪)、大塚聡子(一中、旧姓佐藤)、武田吉彦*(二中)、清水寛敏*(東雲、能代から参加)、近藤敏仁*(山本中)、納谷学(二中)【50期】石井鉄美(一中)、佐藤孝也*(一中)、大塚なみき*(花輪一中)、大高よう*(二中、旧姓北村)、谷内晃*(一中)【51期】袴田亘(二中)、鶴谷則子*(東雲)、工藤榮*(山本)、池内史彦*(山本)、山谷慎一*(二ツ井)、平塚征悦*(東雲)、干場耕司*(二中)、河田康史(檜山)、平塚佐智子*(東能代)【53期】梶原禎子(八竜)【54期】佐藤篤規(二中)、遠藤いぶき(東能代、旧姓畠山)、佐藤信之*(一中)、住吉昭弘*(一中)【55期】淡路和子(一中)、鈴木浩文*(二中)【57期】青木いづみ*(二ツ井、旧姓畠山)、北野美穂子*(鷹巣、旧姓福島)【67期】小野立(一中)、滝田祐作(一中)、小林祐子(峰浜)【70期】松淵得雅*(東雲)【73期】柿崎誠*(二中)【75期】簾内貴就*(二ツ井)【78期】今西拓磨(八竜)【81期】塚本希美*(一中)

◇以上東京同窓会会員参加者122名【名前の*マーク付きは23年度の初参加者43名】

◎東京同窓会以外からの同窓生10名 ◎来賓12名 以上参加者総数144名

★残念ながら当日キャンセルが13名でした(上記名前以外)。今年は是非参加してください。

平成23年度総会 都合が悪く欠席しますと回答いただいた方(敬称略)

【13期】勝永金一【15期】吉田信一【16期】金丸明【17期】茂呂定広【19期】金子隆太郎、大塚哲郎、千葉孝夫、五十嵐嘉久彌【20期】吉田裕、日沼聰、小野喬【21期】五十嵐資和、小野茂、齊藤正、信太吉右工門【22期】村井克自【23期】芳賀徹、清水良二【24期】金子勝信、金野哲夫、中島正美、木村喜作【25期】那須秋男、工藤尊久、民谷恒二、北島茂、町田次男、栗原俊一、佐々木胤麿、大山定美【26期】堀長三、北村祐三、豊田護、八柳昭義、神山正子、宮腰英彌、野呂文雄、佐々木章、仙台嘉仁治、佐々木高博、佐藤三郎、岩見尚夫、池内廣之【27期】北嶋孝章、梅田政男、佐々木隆、野呂田徹義、佐藤齊、袴田次雄、菅原貞敬、後藤信義、菊池剛志、齊藤秀夫、平川政広、佐藤和夫、中野春行、高砂浩、秋山為義、栗原優子、田中郁三、平川文雄【28期】長野青史、中村敦美、堀内盛、須田正巳、石川輔宏、穴山勝良【29期】石川正順、越前谷孝臣、佐藤美美江、加茂谷紀男、大越善蔵、下間弘道、塚本祝永、奈良郁郎、山崎武、長谷川哲治、金谷義昭、蓼沼正紀、赤塚鉄男、大高一益、佐藤清弘、中田龍一【30期】岩村光二、今立駿、宮腰忠、小形昇三、宮腰七郎【31期】針生健三、佐藤昭夫、島二郎、銭谷昇、山谷俊隆、加賀幸則、小田幸雄、大倉報三、小林武廣、平川和夫【32期】吉岡良隆、野呂田正一、越前谷昭則、高田政勝、菅紀夫、笠原強、芦崎昭紀、上田公三、奈良勝夫、松橋厚、森喬夫【33期】草山晃、野原祐造、大塚寿美子、清水靖子、渡辺誠子【34期】斎藤彰悟、阿部良和、棚橋東峰【35期】枅修、清水正之、加賀亮司、柳谷淳、金子永喜、三谷洋志、平川徳道、川添能夫、唐澤好文、金谷満郎【36期】智田慎正、嶋津一斉、藤辰夫、武田忠克【37期】今野廣隆、保坂孝雄、小杉山久晴、小松義明、小野津世子、吉田幸雄、袴田大蔵【38期】山城信義、中田光治、酒田正克、金野正道、田村修平、畑沢鉄三、戸松伸一、工藤巧、安田康夫、福田満男、佐藤春香、鈴木貞幸、能登洋一【39期】武田信雄、金野峻明、茂呂忠良、佐藤景紀【40期】小川孔輔、田中久子、熊澤朝子、小林哲、三浦和信、高橋博美、武田清悦、横田琢丸、智田農、【41期】伊藤千恵、藤田久夫、加賀久毅、亀田澄朗、高橋秀喜、高畑仁、山谷和則、鈴木幸男【42期】中村幸子、佐藤行信、島村務、工藤俊一【43期】近藤信雄、渡辺博栄【44期】畠山博行、森岡雅信、納谷信文、宮腰正己、渡邊隆幸、三国昇一【45期】鎌田泰宏、平野信任、佐々木文明、真崎裕、高松武史、金谷哲【46期】神成嘉正、大塚晃【47期】菊地真【48期】北林蒔子、越後康一、佐藤公樹、安濃純、小林一彦、野島美季子【49期】大塚忠彦、鎌田健二、齊藤忍、田村盛仁、大高達夫、田村弘文、今野泰則【51期】安田勉、平塚佐智子【53期】吉田順、若林康人【54期】小原恵、今佐都美、佐藤弘孝、三浦佳奈子【55期】嶋田久美子、大山顕、浅野敦志【57期】渡邊直美【58期】田中ゆき、田中聡【59期】日吉由紀子【60期】柴田真人、齊藤陶子、山口美幸、安井正彦【62期】大高忠勉【67期】柳谷真澄【80期】大坂美穂、加藤大貴【81期】小西愛

★欠席でもお返事をいただけるとたいへんありがたいです。ありがとうございました。

平成23年度 総会・懇親会のご報告

2011年の総会・懇親会が10月15日(土)アルカディア市ヶ谷にて盛大に開催されました。講演会では、第51次南極越冬隊の隊長をつとめた工藤栄さん(第51期)に、南極の自然や調査について語っていただきました。前年に続いて歌手のYU-KOさん(第67期)も自作の歌を披露。また、例年より多くの恩師にご出席いただきましたので、再会の感想とともにご報告します。

講演会 「我々の南極越冬」

講師：工藤 栄さん



●スライドを使い、南極大陸の実態紹介

1957年に最初に現在の昭和基地にたどり着いて、日本は今年で53回目の南極観測隊を出してきました。映画「南極料理人」やテレビ「南極大陸」は、南極観測の一面を描いた作品です。

小学校の頃から水の中に不思議さを感じ、水の中を探る仕事に就きたいと思っていました。40歳になって、2回目の越冬観測の機会に南極の湖に潜り、自分でじかに体感しながら調査してみよう、と思い立ったわけです。南極の湖に潜った人は世界に5人ぐらいしかいない。そういう世界を紹介します。

南極には8回(この12年間で、越冬は3回)行きました。12年間で6年ぐらい南極にいる、そんな生活していることになります。家族には非常に苦勞をかけています。

仕事対象は水の中の植物。趣味は魚釣り。どちらも水の中の相手は見えない。そこで情報やデータを集め修正しながらやるっていうところに共通した面白さがある。趣味も仕事も科学っぽいでしょ?(笑)

南極発見からまだ200年ぐらい。南極点到着が100年前。観測はまだ50年。未知の大陸です。

探検の時代はアムンゼンやスコット、白瀬(のぶ)陸軍中尉。白瀬は南極に行くにあたって幼少のころから五つの戒めを決めました。「酒を飲まない」「タバコを吸わない」「茶を飲まない(温かいもの)」…。かたや現在の観測隊は、一つも守っていません。でも仕事はちゃんとやっている(笑)。

昭和基地は大陸の上ではなく島の上であり、建築当初の55年前の風景と全く同じ風景がある。55年前に使った竹竿がまだそこにある。建設当初は大変困難を極めました。船が小さくて、人は帰ることができたが犬を連れて帰ることはできなかった。それがタロとジロの映画になっています。

●地球を調査

我々は地球と、その中で生活する生き物を対象に調査しています。地球はどう変化し、その中で生物はどう対応してきたのか、この先どうなっていくのか。

例えば、落ちた流れ星(隕石)が氷の上だと見つかりやすいので、スノーモービルで探します。現在2万個近く保有(世界で2番目)。大型雪上車(衣食住全て可能)で基地から1000メートル離れた場所の内陸調査。南極大陸の上には平均で2000メートル、最大で4000メートルの氷が詰まっています。この氷をドリルで掘り出し、氷の柱の中の空気を調べると、約100万年遡った(人類が活躍する前の時代)大気を取り出すことができます。

氷から露出した岩には植物(コケや藻)があります。地球ができてからおおよそ50億年。生き物が水の中で生活しだしたのは30億年前、陸上に出てきたのが5億6千万年前、恐竜は1億年前、人間は20万年前から。地球の環境変化がある中で生き物は環境に合わせて生存してきた。南極では氷期が終わり温かくなって氷が溶けた所に湖ができた。その水の中には植物がすみ始めている。こうした湖は新しいため(1万年ぐらい前)動物たち(魚)はいない。植物が環境を整え、動物たちが生まれてくる。地球の流れと同じようなことが、



ビデオで約5分の南極観測紹介も

この湖から想像できるんじゃないだろうか？

●現在の昭和基地

越冬隊員は28人(女性2人)。仕事の内訳は気象、オーロラや各種観測に携わる11人、技術者(電気、車両整備、医療、調理、山岳救助ほか)ら17人。

勤務は通常8時～17時だが、28名で生活しながら基地の維持をするゆえ、必ず誰かの時間外勤務がある。物資や食糧の補給は年1回。個室(4畳半)で生活し、余暇は飲酒、バンド活動、ゲーム、スポーツ会、小旅行など。

雪は結晶で静かに降ってくると、太陽が柱上に輝くこともある。ブリザードは本当に厳しい。日本と一番違うのは「極夜と白夜」。それぞれ1カ月少々続くこと。しかし、氷河と雪原、わずかな裸の原野があるだけだが、地球上でこんなにきれいな場所はない。(記録/第51期 河田康史)

教え子冥利に尽きた恩師との再会

第45期 小杉山 乙矢

昨年の10月、初めて能代高校東京同窓会総会に参加しました。

当日の1週間程前に、25年以上も能代には帰っていないので、ネットで今の能代を調べ、卒業アルバムを引っ張り出し、予習しました。

当日は、なつかしい人達、会話、雰囲気満ちていました。大先輩達からフレッシュな若者たちまで右も左もみな能代高校生、いいものです。

2次会では、45期と49期がいっしょに共通の恩師藤原六郎先生を囲み、すっかり高校生にもどりました。会話が盛り上がり…。

藤原先生の一言に感激しました。「みんなありがとう。教師冥利につきる！」

短い沈黙の後、全員で「先生！(我々も教え子冥利に尽きます)」



藤原六郎先生を囲む45期生

あの日から9ヵ月ほど経ち、今東京同窓会総会を振り返ってみると、能代で生まれ、能代で育ち、能代から出発した、自分の原点を再認識した一日でした。(静岡県長泉町在住)

33年ぶりの藤原先生、旧友との再会

第49期 近藤 敏仁

同期の大塚(旧姓:佐藤)聡子さんから2011年度能代高校東京同窓会に藤原六郎先生が湯沢からいらっしゃるとの連絡を受け、高校卒業以来、初めて同窓会に参加することにしました。同期の殆どの方とは33年ぶりの再会ですが、面影は昔のままでほっとしました。

懇親会の途中、45期の加藤先輩のアテンドで藤原先生が来場されました。先生もまったくお変わりなくお元気な様子で一同安心。

賑やかな懇親会終了後、近場の料理屋さんへ移動して、45期・49期合同の藤原先生を囲む会をスタート。乾杯の後、近況ならびに高校生時代の思い出を各自制限時間3分間で報告。私たち3年G組の最大の思い出は受験を控えた3年生の春の森山荘合宿の夜のことです。我々の「やんちゃ」が過ぎて先生には大変ご心配をお掛けしました。厳しい状況の中、藤原先生の、何よりも生徒を第一に考えて行動なさった姿に(今思い出しても改めて)頭が下がります。本当に有り難うございました。詳細については各種支障のため割愛させていただきますが皆様のご想像にお任せします。

賑やかに杯を重ねているところに、同期の薄井君が読売新聞社の橋本五郎さん(三種町出身、秋田高校OB)を伴って合流というサプライズで宴は一段とヒートアップ。五郎先生と六郎先生の秋田への熱き思いを伺いながら一献、また一献…。あっという間にお開きの時間になってしまいました。



藤原先生と49期生

夜も更け加藤先輩が藤原先生をホテルにお送りした後、49期のメンバーは別れがたく、山田君のいきつけの店へ移動して三次会。時間はあっというまに過ぎて終電の時間に。再会を約束して家路に着きました。それにしても（いまさら申し上げるまでもないことですが）皆さん、本当によく飲みますね…。
（神奈川県座間市在住）

総会での恩師、谷内先生との再会

第50期 佐藤 孝也

東京同窓会より総会の案内を毎年いただいておりますが、1980年の卒業以来、初めて参加させていただきました。同期の石井鉄美君から恩師の谷内成治先生がご出席されるとのことで誘いをうけたことがきっかけです。石井君とは職場が同じ芝浦と近いこともあり、五日会のイベントにもお誘いを受けて参加。さらに谷内先生ご参加ときいては欠席できるはずも無く、喜んで参加いたしました。

谷内先生は我々50期（3年G組）の前は46期先輩の3年次担任をされており、46期先輩が多数参加されていることから先生も以前から東京同窓会参加を希望されていたようです。石井君の声掛けで50期も谷内晃君、北村ようさん、大塚なみきさんも初めて参加。46期と50期は、谷内先生との再会に大いに盛り上がりました。私が約20年前栃木県に住み始め、その後両親を能代から呼び寄せた為、帰能の機会も少なくなり先生にお会いするのは10年ぶりでした。しかし谷内先生はお元気で高校時代と変わらず「コウヤヨー」と声を掛けていただきました。在学当時には数学を教わった他に「ジャズ」「テニス」をはじめ、大人の世界も教えていただいたように記憶しています。当時のユニークな授業スタイルや課



谷内先生も教え子たちに混じって着席

外体験では、「自分で全て問題解決していく」姿勢を教えていただき、今の自分に大きな影響を与えています。先生は懇親会終了後の二次会にも参加され、改めて先生を囲んで旧交を温めることができました。

東京同窓会は、同級会の場合を兼ね、お元気な恩師をお招きする絶好の機会と思います。東京同窓会でお会いした同窓生とその後フェイスブックで情報交換し親交を深めております。誘ってくれた石井君ありがとう。谷内先生お元気で。

小林勝平先生との再会、充実の1日

第57期 北野 美穂子

卒業して四半世紀が過ぎました。

恩師の小林勝平先生が能代からいらっしゃるといことで、友人青木（畠山）いずみさんに誘われ昨年東京支部同窓会に初参加致しました。

久しぶりにお会いした小林先生は昔とお変わりなくお元気そうでとてもうれしかったです。同期では青木さんと私の2人だけでしたが、先生と他の同期の近況や昔の思い出話で盛り上がり懐かしく楽しい時間でした。

懇親会では大先輩から若手の方ともお話できて大変刺激を受けました。講演会やミニコンサートも楽しく、とても充実した1日でした。またぜひ参加したいと思います。幹事の皆様ありがとうございます。小林先生またクラス会等でお会いできるのを楽しみにしております。

懐かしく、刺激的な同窓会

第57期 青木 いずみ

能代高校を卒業して、20年以上。小林先生がいらっしゃるといことで北野（福島）美穂子さんと東京同窓会に初めて参加いたしました。初めて



小林勝平先生と

の参加だったのですが、いろいろな方にお声をかけていただき楽しい時間を過ごすことができました。

また、久しぶりにお会いした小林先生とは卒業から20数年経っていても当時のお話を少し前の出来事のように話すことができ、まるで高校生の頃に戻ったような感じで懐かしく楽しい時間でした。さらには先生と生徒というだけでなく、改めて能代高校の先輩と後輩ということで、小林先生の同期の先輩方からも有意義なお話をたくさんお聞きすることができ、私達もがんばろうと大変勉強になった一日でした。

初めて参加した同窓会は南極についての講演があったり、ゆっくりと歌を聴いたり、とても刺激的な楽しい時間でした。幹事の皆様、どうもありがとうございました。

またお目にかかる日を楽しみにしております。



恒例の万歳三唱

※総会・講演会・懇親会の写真の一部は東京同窓会ホームページからもご覧になれます。

<http://shoryokenji.wed.fc2.com>

御徒町で同窓生に会える店

ふぐ・季節料理
きくち

第43期 菊池忠夫

〒110-0005
東京都台東区上野 6-6-4 デュークビル 1F
JR 御徒町駅より歩いて3分位
電話 03-3839-3382
e-mail: fugu-kikuchi@mrg.biglobe.ne.jp

白神山地(藤里町)出身
<http://www5b.biglobe.ne.jp/~fugu-ki/>
<http://homepage2.nifty.com/shoryo-tokyo/g2kikuchi.html>

会員だより

能代高校スキー部のこと

第20期 吉田 裕

大日本帝国が連合軍に負けたとき、私は県立能代中学校の2年生だった。敗戦で一番よかったのは、スキー部が復活したことだった。戦時中、スキーは野球やサッカーと同様に敵性スポーツと見なされ、部活動は禁止されていた。スキー部の初代キャプテンは「機関手」こと佐藤勇一氏。予科練帰りで、大変な闘志と馬力の持ち主だった。最初の合宿地は二ツ井。次の年からは、大鱈温泉スキー場だった。「温泉客舎」と呼ばれる湯治場に寝泊まりするのだが、自分の寝具持ち込み、1日あたり白米3合持参が参加条件だった。今でも鮮明に憶えているのは空腹と虱(しらみ)の痒さだが、スキーの楽しさがそれを帳消しにした。

筆者は昭和24年度スキー部主将、上智大学名誉教授、上智大学アспен・スキークラブ名誉顧問(20年くらい顧問兼コーチ)。学内スキー大会では回転と大回転の前走をやっていた。



上智大のスキークラブの集合写真(東山スキー場にて)。最前列中央、ヤッケの老教授が私(1993年3月、61歳のとき)。

きりたんぼ鍋をつつきながら

第24期 山縣 輝輔

平成23年11月26日五反田の秋田郷土料理店「吾作」において第11回能代高校24期首都圏同期会に、11名が集い、「きりたんぼ鍋」、なた漬け、はたはた、新鮮なお刺身等を賞味しながら、賑やかで、楽しい晩秋のひと時を過ごしました。

遠路、高崎市から中島正美さん、ひたちなか市から山田和明さん、紅2点の小山黎子さんと栗

生沢浄さん、前回欠席された金野哲夫さん、常連の田久保光一さん、蓮沼旬さん、今村宏司さん、金丸正さん、金子勝信さん、と私の11人での歓談、特に、恩師のあだ名、英語の「ドンキー」「アップ」「イセコー」、国語の「アネチャー」、体育の「バンチョー」「ダイショー」など親しみあるあだ名とともに、樽子山時代に絞られたこと、教え方等話題が豊富で賑わいました。また、この数年の間に大病をした人の経験談から、人との絆、ちょっとした周囲の機転と思いやり等に、救われたこと、その他趣味や健康法など話題が尽きませんでした。

2001年(平成13年)本格的に同期会が再スタートし、第1回の同期会の集合写真に21名がおり、今日現在そのうちの4名の方が亡くなりました。この日集まった11人は、お互いに健康に注意し、再会を期して家路につきました。

なお、次回の同期会は平成24年11月17日(土)12:30東京(場所未定)を予定しております。同期生の皆さんは、出席できるように年間スケジュールに入れておくようお願いします。



恩師のこと～世間は意外と狭い～

第38期 大塚 健三

思えば昭和43(1968)年3月に卒業してからはや44年が過ぎ、還暦も超えて人生の終盤になりつつあります。樽子山にあった校舎に3年間自転車で通ったことがなつかしく思い出されず。研究者の道を目指し、大阪大学理学部生物学科に進学、その後紆余曲折はありましたが、現在は愛知県にある私立大学応用生物学部の教員をしています。研究者になろうと考えたのは、高校3年のときの担任平野忠夫先生(故人)の影響が大了。平野先生には2年と3年のときに物理を教えてくださいました。むずかしい内容も理路整

然とした話し方でわかりやすく、また学問に興味があわくような情熱的な教え方でした。平野先生の指導を受け、どうせやるなら基礎的な学問をやりたいと思い、1960年代から盛んになりつつあった生物学の道に進みました。

余談ですが、3年A組の仲間は絆が強く、市川(旧姓北島)正敏君の世話もあって、卒業後もよく平野先生を囲んで同級会をやっていました。平野先生亡き後も、東京では毎年6月に、能代でも数年に1度は同級会を開催しています。

なお、大阪大学大学院時代に、私はある高校で生物の非常勤講師をしておりましたが、その高校に小西(旧姓北川)和子先生が赴任してきました。能代高校では重なってはおりませんでした。前任校が能高ということで奇遇に驚いたものです。

私は大学院修了後、昭和53(1978)年から名古屋に移り、名古屋大学医学部で3年、その後愛知県がんセンター研究所にて20年間がんの基礎研究に従事、2001年から現在の大学にお世話になっています。現在私も、平野先生のように、学生の心に火をともしることができるような教育を心がけています。

名古屋に来てしばらくして、英語の教員をされていた金田文昭先生が名古屋に住んでいることを平野先生から伺い、さっそく会いにいきました。金田先生には3年のとき、週に2-3回ほど朝早く通常の授業開始前に、シェークスピアの「ベニスの商人」などを教材に英語を教えてくださいましたことがなつかしく思い出されます。その後名古屋周辺に、3年A組の同級生がほかに3人[岩山健、袴田政広、若狭広樹(故人)]もいることがわかり、それではということで、13年ほど前から、お元気な金田先生を囲んで名古屋の地で、毎年3月に同級会を開催しています。世間は意外と狭いのだろうと思う昨今です。(愛知県在住)

憧れの表札と青春の日々

第42期 塚本 恵子

昨秋の総会に能代から出席させて頂いた地元同窓会・会計監査の塚本です。その節は大変お世話になりました。私にとっては去年が初めての東京同窓会だったのですが、あの盛会ぶりには、正直

驚かされました。ことに印象深かったのは、総会に集う同窓生の、年齢層の幅広さです。それぞれ大先輩の方々から、はるかな後輩の皆さんに至るまで、時代や人生経験を全く異にする人たちが、母校を愛し故郷を懐かしむ熱い思いで一つになり、世代を越えて和気あいあい、交流を暖める光景は、非常に感動的でした。また生徒会で1級上だった金子裕二さんや大久保英生さんなど、懐かしいお顔に卒業以来初めて接することができたのにも感激しました。

さて皆さんは、この写真にある名札をおぼえていらっしゃるでしょうか？ これは私が入学した頃、学校が新入生全員に配っていた「このうちに能代高校生がいます」という意味の木札で、上の方には校章の焼印が押されています。いつからこういうものを学校が用意するようになったのかは存じませんが、当時よその学校でも同様のものを配っていたかどうか記憶にありませんが、私はこの表札に、入学前からある種の憧れを抱いていました。私の姉が2級上で当時やはり能代高校に在学していましたが、家の玄関の鴨居の上に、姉の名札に並べて父がこれを掛けてくれたときの嬉しさが、昨日のことのように思い出されます。

在学中は生徒会に携わったほか、野球部のマネージャーも致しました。同期の野球部キャプテン庄内豊さんによると、当時極端に少なかった女子生徒からも野球部への応援部隊を出そうと、PTAの会長と副会長が自分たちの娘をマネージャーに据えたそうで、私にしてみれば知らない間にそこにいたようなものでしたから、卒業後はそのことを半分忘れかけていたのですが、卒業十何年後のある夏に、野球部で久々に集まるから来ないかとの連絡が入って出掛けた会が、のちに野球部以外も含めた同期会に拡大され、なんとなく私が事務局代わりになって、現在まで大きな会だけでも平成16年、19年、22年と3度開催しています。

また、小さな集まりは毎年開いています。本当に楽しい時間です。「あれが青春だったんだな」なんて、今になって感じます。



東京同窓会の同好会

東京同窓会には、同窓生の親睦のために以下の同好会があります。これらの会に連絡を取りたい人、新たな同好会の提案がある人はご連絡ください。事務局メールアドレス：shoryo-tokyo-01@live.jp

◇棋聖会

活動内容：囲碁・将棋の同好会です。年に3～4回程度、土日・午後の開催を予定しています。

代表者：石川正順（第29期）

◇能高五日会

活動内容：同窓生の青年部。若手同窓生たちの親睦と交流を目的にした懇親会です。設立は2006年1月5日。自分が若いと思っている人はだれでも青年です。入会資格は故郷と母校を愛していること。今期の忘年会は11月16日の予定です。

代表者：石井喬（第46期）

◇樽子山会

活動内容：樽子山を卒業した世代が各期を越えて参集し懇談します。元気な70歳台の楽しい寄集まり会にしたいと思います。

代表者：畠豊彦（第25期）

◇能球会

活動内容：年2～3回、東京近郊のコースでゴルフを楽しみます。

代表者：石井喬（第46期）

◇能高釣クラブ

活動内容：自然を満喫しながら溪流釣を楽しみ、昼はバーベキュー、夕方は温泉で疲れを癒します。

代表者：小河範也（第41期）

◇東京探訪の会

活動内容：年2回、日常あまり触れることのない「東京」を訪ね、約2時間のコースを散策します。今年度は「芭蕉ゆかりの深川を歩く」（2011年11月、14名参加）、「目黒～恵比寿、ゴールは白神フェア」（2012年5月、16名参加）を楽しみました。

代表者：吉田真由美（第46期）

◇能高バスケの会

活動内容：能代カップやウインターカップ、日本リーグやbjリーグ観戦、観戦後の掲示板への掲載、本校バスケット部やバスケット部OB会との交流などによる情報交換をしています。

代表者：片谷浩之（第49期）

平成24年度(2012年)収支決算報告書

(平成23年8月1日～平成24年7月31日)

収入の部			支出の部		
項目	予算	決算	項目	予算	決算
総会収入	870,000	754,000	総会費	1,230,000	1,258,332
会費収入	580,000	584,000	組織拡張費	43,100	22,325
雑収入	90,400	108,079	一般管理費	267,300	155,700
当期合計	1,540,400	1,446,079	当期合計	1,540,400	1,436,357
			当期収支	200	9,722
			応援基金	0	-20,000
			預かり金	0	-17,000
			前年度繰越金	1,015,611	1,015,611
			翌年度繰越金	1,015,811	988,333

★紙面の都合で簡易版を掲載しました。総会資料、東京同窓会ホームページでは詳細をご覧ください。

平成24年度年会費納入者(敬称略)

(2011年8月1日～2012年7月31日)

【19期】小林肇、大塚哲郎*、金子隆太郎*、千葉孝夫*、五十嵐嘉久彌*、鈴木良夫* 【20期】日沼聡*、吉田裕*、小野喬* 【21期】五十嵐資和*、小野茂*、信太吉右門* 【23期】矢口裕、清水良二* 【24期】山縣輝輔、小山黎子、今村宏司、金丸正、蓮沼旬*、中島正美*、金子勝信* 【25期】畠豊彦、那須秋男*、民谷恒二*、工藤尊久*、栗原俊一*、佐々木胤麿*、北島茂*、町田次男* 【26期】畠山信孝、板倉富弥、松橋重美、宮腰英彌*、八柳昭義*、佐々木章* 【27期】山田邦夫、檜森寛、大村真陸郎、石嶋喜直、斉藤秀夫*、後藤信義*、栗原優子*、田中郁三* 【28期】須田正巳*、穴山勝良* 【29期】太田勝治、宮腰興紀、関根市男、笹木広澄、宮腰瑞夫、清水武久、鈴木元紀、石川正順*塚本祝永*、越前谷孝臣*、嶋田雄右*、赤塚鉄男*、山崎武*、糟谷愛*、中田龍一* 【30期】熊谷幸夫、渡辺傑、相澤節夫 【31期】馬場富男、高松和夫 【32期】森田弘、高谷誠*、吉岡良隆*、野呂田正一*、菅紀夫*、高田政勝*、森喬夫*、芦崎昭紀* 【33期】石原恵美子、清野勝子、金田英成、矢木信章、櫻田眞人 【34期】西川廣正、長岡忠光、庄内正、棚橋東峰*、斉藤彰悟*、畠山昇、金田三千夫* 【35期】横田真理子、石山眞*、干場革治、金子永喜*、川添能夫*、金谷満郎*、平川徳道*、加賀亮司* 【36期】深井学、嶋田星子*、武田忠克*、男鹿谷浩市* 【37期】今野廣隆、袴田大蔵、小野津世子 【38期】豊嶋誠、佐藤能雅、新堀勝男、袴田忠夫、岩谷憲一、金野正道*、佐藤春香*、福田満男* 【39期】菅原涉、大塚進、泉龍英、直嶋博明、田村敏雄、持田訓、木村行雄、下坂節男、金野峻明* 【40期】清水英宏、熊澤朝子*、小林哲*、高橋博美*、智田農* 【41期】小河範也、大久保英生、金子裕二、瀬川公平、成田忠幸 【42期】佐藤行信* 【43期】菊池忠夫、須藤正喜、福岡武、高橋敦子、大塚和博、石塚信一、北林博敏、小沢茂則、近藤信雄*、渡辺博栄* 【44期】庄内俊憲、橋本周平、佐藤典、三国昇一* 【45期】袴田邦夫、三浦洋、大塚雄蔵、小杉山乙矢、相澤正和、榊原正彦、港基樹、高松武史*、平野信任* 【46期】斉藤靖雄、吉田真由美、秋林泰樹、石井喬、平川尚、児玉憲悦 【47期】野村一哉、和平忠幸 【48期】竹内勉、北林蒔子 【49期】片谷浩之、松永京子、大塚聡子、武田吉彦、近藤敏仁、納谷学、田村盛仁* 【50期】石井鉄美、佐藤孝也、大塚なみき、大高よう、谷内晃 【51期】袴田亘、鶴谷則子、工藤栄、池内史彦、山谷慎一、平塚征悦、干場耕司、河田康史、平塚佐智子 【53期】梶原禎子、吉田順* 【54期】佐藤篤規、遠藤いぶき、佐藤信之、住吉昭弘 【55期】淡路和子、大山頭* 【57期】青木いずみ、北野美穂子 【67期】小野立、滝田祐作、小林祐子 【70期】松淵得雅 【73期】柿崎誠 【75期】簾内貴就 【78期】今西拓磨、楊裕介* 【81期】塚本希美

以上合計 201名

※年会費世帯制の適用者3組は二人の名前を掲載しました。 *マークは総会欠席にも係わらず会費を納入頂いた方です。

年会費納入のお願い(財務委員会)

日頃から東京同窓会の年会費納入にご協力頂きまして誠にありがとうございます。昨年度年会費を納入して頂いた方は201名で、その御芳名は上記に掲載させて頂きました。長いこと目標にしてきた200名の大台に初めて到達することができ心から御礼申し上げます！この年会費は会報誌の作成、総会案内状の送付、出欠回答の回収・整理、ホームページ運営など日頃同窓会を運営する上での大切な財源になっております。現在東京同窓会の会員数は約1,400名ですが、この内の約200名前後の年会費によりなんとか運営されているのが実情です(参考:大館鳳鳴高校東京鳳鳴会は昨年475名納入)。そのため近隣の同窓会に比べて我が同窓会は年会費が3,000円と少し高い状況にあることから、これを早く2,000円程度に値下げしたいと考えております。ただ現状の納入者数ですぐに値下げをしますと財政的に成り立たなくなり同窓会の運営に支障が出てまいります。あと少し幅広い皆さんに年会費納入をご協力頂けましたら誠に幸いです。次は300名納入を目指し、300名に達しましたら年会費を2,000円にしたいと考えております。今後とも皆様のご理解とご協力を宜しくお願い致します。なお、総会には出ないものの会費だけは毎年きちんと納入して頂いております方も沢山いて、それらの方には重ねて厚く御礼申し上げますと共に、今年の総会には是非ご出席頂けましたら大変嬉しく、幹事一同心よりお待ちしております。

松陵健児

能代高校東京同窓会 会報 第22号

発行日 平成24年9月1日

発行 能代高校東京同窓会

発行責任者 菅原 涉

編集 会報誌委員会

印刷 大森太田印刷有限公司

■能代高校東京同窓会事務局

〒103-0007

東京都中央区日本橋浜町3-35-5-504

(株)ダイオージャパン内

電話 03-3660-1957

FAX 03-5847-7056

■年会費払込先

郵便払込口座番号 00150-7-27459

加入者名 能代高校東京同窓会